南湖におけるホンモロコの産卵状況調査

片岡佳孝

１．目　的

種苗放流や生息環境整備（外来魚駆除、水草刈り取り等）により、南湖ではホンモロコの自然産卵が復活、回復してきた。そのため種苗放流は、2022 年度をもって終了したが、南湖でのホンモロコ資源の状況をモニタリングするために産卵状況調査を継続して実施している。本稿では 2024 年度の南湖での産卵状況調査の結果を報告する。

２．方　法

ホンモロコの産卵期間に草津市下笠地先のヤナギ林（調査区間：約 153m。以下、下笠）および守山市赤野井地先のヤナギ林（調査区間：約 212m。以下、赤野井）において産着卵数の計数調査を行った。調査は、1 回/週の頻度で、下笠が 2024 年 3 月 13 日～6 月 25 日（計 16 回）、赤野井が同 3 月 13 日～7 月 3 日（計 17 回）に行った。

３．結　果

ホンモロコの産着卵は、下笠では 3 月 19 日から 6 月 25 日、赤野井では 3 月 19 日から 6 月 11 日の間で確認された（図 1）。産卵ピークは下笠が 6 月 10 日、赤野井が 4 月 24 日であり、両地点間で産卵ピークに違いが認められた。

調査期間中の総産着卵数は、下笠で 592 万粒（昨年度比 0.6 倍）、赤野井で 420 万粒（同 0.4 倍）となり、昨年度に比べ大幅に減少した（図 2）。しかし、ホンモロコの産卵は南湖の広い範囲で認められており、両地点の産卵数の減少が、直ちにホンモロコ資源全体の大幅な減少を表しているとは考えにくい。今後も産卵状況のモニタリング調査を行い動向について注視する必要がある。

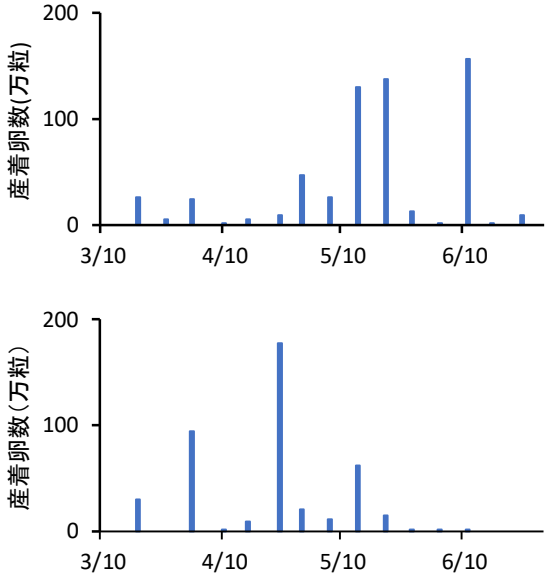

図 1　調査日ごとの産着卵数（上：下笠、下：赤野井）

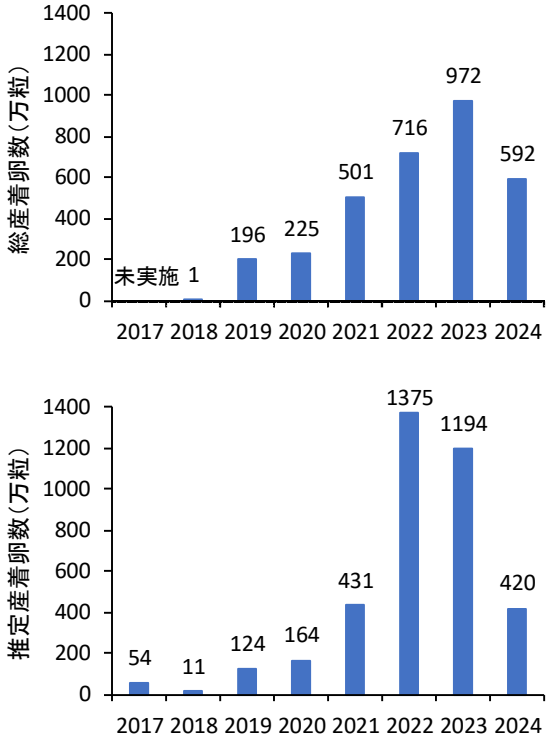

図 2　総産着数の推移（上：下笠、下：赤野井）